

# 東日本大震災復興支援 生活支援相談員ニュースレター

～VOL.40～

令和元年6月発行

【発行】

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ  
岩手県盛岡市三本柳 8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7042 FAX:019-637-7592

## 山田町で新たな自治会設立の動き

山田町の飯岡団地は、山田町内で最後に完成した戸建ての災害公営住宅で、H31年2月に入居が開始され、36戸中34戸で入居が完了しています。近隣には山田中学校、山田病院、山田消防署などがあります。

6月19日（水）18時30分から、山田消防署会議室で、飯岡団地入居者説明会及び顔合わせ会が開催され、住民20名が参加しました。

この日は山田町役場から、（1）行政区について（2）集会所について（3）公園の管理について説明があり、その後、山田町社協の生活支援相談員等の進行で、テーブルごとに自己紹介をして、住んでみての感想や要望など、意見を交換しました。

住民からは「静かな環境で快適に暮らしている」「1世帯1台分の駐車スペースでは足りない」「ゴミステーションの清掃当番を決めた方がいい」「公園の草刈りをボランティアでしている」など多くの声がありました。



山田町地域コミュニティアドバイザーの岩手大学船戸助教から、「震災から8年が経ち、住まいも決まり、これからは皆さんで支え合いながら暮らしていくことになる。清掃当番や公園管理も、自治会を組織して取り組むと進めやすくなる」と自治会設立に向けた話がありました。住民も自治会設立の方向で意見がまとまり、自治会設立準備委員が選出されました。

隣接する移住再建世帯（山田第1団地）でも6月25日・26日に顔合わせ会が行われ、合わせて79名の住民が参加し、「大きいゴミステーションがほしい」「団地内の人ともっとコミュニケーションをとりたい」「カラーミラーが必要な箇所がある」などの意見が出ました。

船戸助教は「住民で話し合いをして自治会をつくり、町へ要望をとどけるべき」と自治会の必要性を話し、山田第1団地の住民も自治会が必要との意見でまとまり、それぞれ自治会設立準備委員が選出されました。

今後、飯岡団地（戸建ての災害公営住宅）と移住再建世帯で構成される世帯数約100戸の新自治会設立に向けた準備が本格化します。



## 支え合いマップインストラクター養成講座 生活支援相談員など多数参加



令和元年度支え合いマップインストラクター養成講座【第1回】を山田会場（6月17～18日）と宮古会場（6月19日～20日）の2会場で開催し、市町村社協の生活支援相談員など両会場合わせて52名が参加しました。

講師は、住民流福祉総合研究所 木原孝久所長です。

一日目は、支え合いマップづくりの目的、住民流福祉の概要について学びました。

二日目は、DVDで聴取における視点と留意点を学んだ後、グループ毎に支え合いマップづくりの演習課題に取り組み、住民への聴取の心得及び住民流福祉の実現に向けた発想の転換や視点の持ち方を習得しました。

### ★ポイント★

- マップづくりが負担になってはいけない。1人でもいいから世話やきを見つけ、“作りやすい地区”で作り、取組課題の実践を重視すること。
- 世話やきを見つけ、信頼関係を築くこと。
- 関わりの線を引くときは本人（当事者）の側から見ること。
- マップを作った後の実践こそが目的！



木原 孝久先生

受講生からは「助けを必要としている方は4層にいること、町内会の広さではニーズの把握ができないということを改めて理解できた。生活支援相談員は訪問で4層の方々と対面できている強みがある。会話の中でご近所とのつながりについて話題にし、世話やきは誰なのかを把握できるようにしていきたい」などの声がありました。

7月に開催する第2回の講座では、実際に住民に聞き取りをしながら支え合いマップを作成し、グループごとに取組課題を考えます。

## 話合いの場で有効な自治会グッズを作成！～柄ヶ沢アパート（陸前高田市）～



陸前高田市の柄ヶ沢アパート自治会で、話合いの場で有効な自治会グッズのうちわを作成しました。

この日は5月の情報共有会の日で、会の始めに参加者全員で手分けをし、50本ほどのうちわが完成しました。

この「いいね」「ちょっと待って」うちわは、話合いなどで、自分から意見や話を切り出せない方も意思表示ができるようにと考えられたアイディアです。

その後の話合いでは実際にこのうちわが使われ、参加者から「遠慮せずに意思表示ができた」「話合いでのマナー向上にもつながる」と好評でした。

